第２回 高原地区街づくり協議会　議事録	
開催日時	平成 26 年 12 月３日（水）10：00～11：50
開催場所	市役所４階　特別会議室
出席委員	13 名
欠席委員	辻沢委員、小野原委員、木村(洋)委員、菅野委員
事務局	吉川市長公室次長、石原総合政策課長補佐、吉本主査、島田主事 （関係課）農林課・林課長
決定事項	(1)空き家対策課題を整理のうえ、事務局より第３回協議会で具体的の空き家活用策を提示する。 (2)東と西の各拠点として、山田公民館と福住幼稚園の活用を進めるにあたり、第３回協議会までに「拠点に求める機能」を各委員より提案を求める。 (3)第３回協議会までに産品づくりのアイデアを各委員より提案を求める。 (4)企業誘致可能な農地（まとまった５反程度）の情報提供を求める。 (5)通学支援対策として、必要となる待機時間を教えていただいたうえで利用可能な公共施設を提示する。

議事内容

１．開　会　－10：00－

２．市長挨拶

準備会議を含めると今回で３回目となるが、そもそもの本協議会の立ち位置についてお話を進めるなかで来年度、再来年度にできることは何かを詰めていきたい。０点か 100 点ではなく、一歩ずつ前に着実に進めていきたい。

３．議　事

(1)高原地区活性化の方向・位置づけについて

委　員

地方創生といわれるなか、自ら考え汗をかく自治体へは(国より)支援されるがそうではない自治体には当自治体だけで頑張るように促される。個々にするのではなくつながりをもって進めていきたい。天理駅前で拠点をつくるといっても、高原地区とのつながりを出す。天皇皇后両陛下御来市の際に、道安宝珠喜を御提供したところ食べられることに御興味を抱かれた。知れば素晴らしいものはたくさんあるため、市全体で発信していきたい。行政側より提案することもあるが決して地域の皆様からの提案を受けつけないということではない。

例えば、天理駅前整備事業において天理青年会議所より要望のあった子どもを預けられる施設を誘致できないだろうかという意見も反映できそうな状況となっているし、発信できる商品

づくりに向けた外部専門家との橋渡しを依頼されることもあった。南部地区街づくり協議会でも、協議会委員に対して「じゃんじゃん市」のグルメグランプリ審査員に就任されるよう要請があった。前会議で発言しなかったために今回は発言できない、団体を代表する発言しかできないのではなく、地域を理解されている皆さんより提案いただきたい。ただし、たくさんのことが出すぎて何も決められないことは残念である。本協議会プロジェクトで来年度、再来年度につながるように、または、既にある地元のイベントを一緒にさせてもらうなどしていきたいと考える。みなさんより協議会のあり方等について意見いただきたい。

委　員

それぞれの置かれる立場で思いを出し、ひとつでも活性化につながればいいと思い参加している。委員の中で立場がはっきりしない点も見受けられるため、立場を理解することからスタートしないといけない。

委　員

協議会のプロジェクトが市主体・主導で具体に事業化していくのか、プロジェクトが地域主体・主導で進めていくのかにつき認識が共有されていないかなと感じる。

委　員

案件によるかなと考えている。施設整備・補修などは市が主体となるであろうし、どのように使うかという運営面となれば一緒にしていく形になるでしょう。行政・市議会・地域住民の三位一体で進めていきたい。

委　員

私はきっかけづくりかなと思う。これからいろいろな(プロジェクトが)立ち上がっていくときに、委員以外の方々も継続的に意識をもって取り組んでいただけたらと思う。そのような意見を交わせる場かな。

委　員

そうですね。連携をうまくとっていくための場かと思う。

委　員

どちらが主体かというのではなく、行政と住民との協働作業で方向性を出していけばよい。前回はブレインストーミングのように問題点を列挙したので今後はどう進めていくのかという点になろう。

委　員

(委員の関わり具合について)例えば、道安宝珠喜のプロジェクトがあるが、具体的に仕事面で委員はどこまで携わることになるのかが不明なのではっきりしてもらえればよい。

委　員

広報の面になれば行政となるし、生産力を増やし名物にしようとすれば地域の皆様から誰が協力できるという情報を提供いただくし、行政もお願いにいく形になる。腰を据えていただくが重くならないようにしていただきたい。しかし、ここで決めたことは予算化し、議会に諮ることになる。

委　員

協議会の位置づけについて、どこの街も活性化をしていこうと模索しているなか、金銭面、行政支援の点で困っているようである。高原地区は市が動いている状況のためうまく利用していけばよいのではないか。やはり、基本は地元の方々がどうしたいのかを考え進めていくときに行政と協力する形となるでしょう。ただ、地元の問題をこの会議を通じて陳情するのではなく、一緒に問題解決していくなかで、行政として解決しないといけないことは行政で解決していくし、新たな発想で取り組むときは取り組んでいく。その意味では福住は「チャンス」である。上手に行政と街づくりをしていける地点に立ったのかな。

動き始めるなかで、この会議体で全てが決まっていくわけではなく、活性化のためには外から人を呼び、動いてもらう。地域の方々では限られた発想になるかもしれないところ、外からの方の発想で新たな展開となることがある。その時こそ、メンバーのなかで話し合いが重要になっていく。いろいろな意見がありながらも理解していく場であって、今後委員数が増えていく際に重要となっていく。

委　員

駅周辺地区街づくり協議会では、天理マルシェなどで間接的に関わる方が増えていることをみると広がっていくプロジェクトがよいのかな。耕作放棄地にしても、地元の方が引き受けて使える場所を教えていただければ業者を呼んでくることもできる。この会議を機会として利用していただければよいと思う。

委　員

学生の立場となるが学生が来れば活性化すると思う。学生が来られるようなまちづくりをできればと思う。

委　員

休みのときに福住に来るようになれば成功、卒業後に福住に住んでみようかなと思えれば大

成功と考えている。

委　員

直近２～３年で福住へ移住してきた人はおられるか。

委　員

ひとりおられる。かつて福住で住まわれた後に引越しされたが、また戻ってこられた。

委　員

福住氷まつりや山田の虫送りなど伝統的な行事があるので、大々的に発信していけばいい。

委　員

空き家活用になるが、住む魅力を発信することも必要だし、体験することも大事。でも、配管工事から必要となる程度の空き家ではなく、（生活できる状態での）ほどほどの空き家で畑付きがよい。統計データとして、平成 18 年と 26 年を比較すると福住町世帯数は９世帯増となっているものの、人口は 250 人ほど減少している。

委　員

11 月中に各区長へ空き家調査したところ、（詳細な調査をすれば結果は異なるかもしれないが）貸し出し可能は５軒となった。

委　員

先日、地域の者に空き家や田畑を貸せるところがないか尋ねた。11 月にテレビで若者による過疎地への定住希望者は多いものの貸し渋りが多いとの報道があった。その理由として、家主の話によれば、仏壇があるため、お盆のお墓参りのときに使えないと不便、家財道具があるため他人に入ってもらうことは難しいという内容であった。やはり、家主に十分理解していただかないと話にならない。テレビでは、200 万円の改修費が嵩むが半額は市が補助したとされた。本腰を入れて取り組まないと空き家問題は進まないと懸念する。

委　員

コミュニティ再生となれば補助することも躊躇しない。家財道具であれば近隣のお蔵に置く、公共施設に置くなどの提案により、条件面を解きほぐしていく場がこの場であろう。問題意識を共有して一緒に解決していく、具体的に取り組んでいかないと 10 年後はかなり厳しいかな。

委　員

空き家を定住者向けとして捉えることもひとつではあるが、天理大学ではゼミ生６人程度で合宿しているので合宿場所として活用できればありがたい。また、授業でまち観光をしつつ、一泊することも考えられる。

委　員

次の審議内容に入っているため、位置づけについては共通認識されたとしてよいか。

－委員より異議なしとの承認を得る－

(2)高原地区活性化プロジェクトについて

委　員

ゼミ合宿の展開として、「大学〇〇ゼミ×△△家への宿泊」となれば発信力がある。それがきっかけとなり、住みたいと思われる方も出てくる。この協議会で、「空き家・放棄地対策」をしっかりやっていくことでよいか。

－委員より異議なしとの承認を得る－

それでは、空き家対策・放棄地対策をしっかり整理しながら行う。本年度中に場所を見つけることができないか。

委　員

田舎では一軒で３棟・４棟があり、離れもあるためそれらを活用することも考えられる。

委　員

先ほどの空き家５軒のうち、婆羅門杉がある福住下之坊に１軒ある。(根の押し出しにより）床が波打っているが同家を改修して宿泊できないかな。スペースは十分である。

委　員

いくつかのパターンが提案されたので一度整理すると、①売る、②貸す、③離れを活用する、④定住、⑤一時滞在（学生セミナーハウスなど）がある。また、使えない理由を場合分けしてみる。さらに改修費用は借主・貸主どちらの負担にするか（行政が補助することもある)。

もう少し次回までに論点を整理し、事務局でまとめていただくが、委員と意見を交わしてここでこうしていくという形に落とし込みを行いたい。

委　員

国交省では、「小さな拠点」構想があるが、空き家をその拠点としてもよい。介護予防や趣

味など何かに使うこともよい。

委　員

空き家を貸す場合に条件を設定してはどうか。耕作放棄地を耕すことを条件とする、また、入居する方を住民が面接するという実例もある。

委　員

借主の本気度を見るために改修費用は借主負担とするのもよい。ただ、家主が改修許可するまで踏み込ませるかどうかですね。

委　員

夏を涼しく過ごすために別荘として借りることもありうる。

委　員

一時滞在のパターンですね。これと近接する考えで、「民泊」についてみなさんはどうお考えか。民泊とは、みなさんのお宅に修学旅行者を泊めることをいうがいかがか。

委　員

（先進事例をみても）受入体制としての雰囲気づくりが重要と考える、

委　員

民泊も１軒だけが行っているのではなくある程度集積しないといけない。

委　員

民泊のほかに農家民宿もある。学生が泊めさせてもらう代わりに手伝いをして経験することもよい。外国の方は喜ぶ。

委　員

来年の夏の企画でどうか。全く言葉の通じないのを辛く感じる家庭のために日本人とセットで泊めることもある。一発で終わるのではなく継続的に行えるようになればいい。

委　員

明日香村は６～７割が海外修学旅行生とされる。

委　員

食事は普段の食事でよいだろう。

委　員

海外の方にとっては、普段の生活を体験してもらうことがよい。泊まる人にとってはその福住の生活が特別である。小さな試みを行い、その様子を他の人が見に来る。

委　員

学生は夏休みに時間があるがお金はない。そのため、短期バイトとして農作業があればいいのでは。

委　員

里山暮らしの切り口としてよい。集中的に勉強する形か、バイト経験するかで攻めるかな。

委　員

ただ、兼業農家ではなかなかバイト代捻出できないかもしれない。

委　員

例えば、集落再生という政策目的で、短期間学生を受け入れた家庭に補助を出すことも考えられるが議会の考えはいかが。

委　員

議会は反対しない。

委　員

単に資金面を補助するだけでは効果が見えにくいが、学生と福住校区のきっかけ・絆づくりにつながるものであれば積極的に考えていきたい。

委　員

運動部系・文化系を問わず部活の合宿場所で使えるところがあれば嬉しい。

委　員

福住幼稚園などを利用し、寝泊りは近隣農家や空き家となればよい。

委　員

これで空き家・耕作放棄地対策は一定の提案があったため、事務局で整理願いたい。

委　員

次に、関連する議論となるが拠点整備の話としたい。資料Ｐ６に公共施設の提示がある。第１回協議会は、福住幼稚園を議題にしたが終始議論になった感があり、少し違和感を覚えられた方もおられると聞いている。いずれにしても、拠点が必要である点に違いない。

かつて子どもらの用途に使用されていた幼稚園において、高齢者や学生も利用することを考えたい。

委　員

子どもらも他の世代の方々と接することを喜ぶでしょう。

委　員

行政側としては、福住幼稚園であればそれほどの改修費用をかけずに活用できる可能性が高い。また、校区のご意見もあるが山田公民館も活用していきたいと考える。

委　員

東に山田公民館、西に福住幼稚園に拠点を置くということですね。

委　員

そして、次の議論として、その拠点で何をするのかということになる。前会議では、子育てふれあい、園芸等の意見があった。

委　員

福祉センターは今後どのように使われるのか。ここなら提案された機能をまかなえるのではないかなと思うので、拠点のひとつとして提案したい。

委　員

同センターについては、これまで集客機能であった入浴施設のボイラー補修問題により使用できない状況となり、旧館自体も耐震性問題がある。

拠点整備にあたっては東と西の２拠点に集中して資源投入したほうがよいと考える。

委　員

同センターについては企業努力等していれば結果は異なったかもしれない。地元の方の協力もあったので経緯を踏まえた判断とされたい。

委　員

いずれにしても、地域の方が集まれる場、今後子育てや交流が図れる拠点をどこに設けるか。
山田公民館と福住幼稚園で検討していくことで進めてよろしいか。

委　員

山田公民館の現使途は生涯学習の視点となっているため、もったいないと感じることがあるので、普段使いや外部の方にも利用を促していきたい。利用されれば、維持管理費も支出できる意義が見出せる。グラウンドの利用など。何を拠点ですることが求められているのか。合宿・子育て、高齢者の集まりなど・・。炊事場もあるので。

委　員

山田公民館では福住小学校生のお泊り合宿もあった。平地の生徒がここで利用されるようになればよい。

委　員

それでは、改めて事務局より「拠点に求める機能」を質問していただき、整理されたい。

委　員

次の議論として商品開発について話したい。
つくるものは道安宝珠嬉と決まっている訳ではなく、お茶や高原野菜をつくりたいなどご意見あるでしょう。ただ、素敵なものをいくつかつくることで、福住を対外的に発信することが大きなきっかけとなる。そして、他の協議会と結びつくことになる。

委　員

ブランド産品づくりは発信力ある。現在の仕事でのバイト代捻出は難しいが、何か新しい仕事が生まれれば人手がいるため、みんなでアイデアを出していきたい。

委　員

産品づくりでこれが売り、良い弾といえるのがあれば、第３回協議会までにアイデアをいただきたい。商品があるから人が集まる、拠点づくりとつながってくる。ここでしか食べられないカレー、加工ケチャップ・・など。そして、そのための加工場として拠点の一部を使うこともよい。

委　員

地域で何か商品をつくるとなれば、外的要因（鳥獣、イノシシ対策）、気候・風土に合わす、例えばハウス栽培ともなるとどうしても先行設備投資が必要となってくる。それらも並行して

考えないといけない。例えば、かんぴょうづくりでは平地と山間では異なるし、皮むきのために足を運ばないといけないなど課題がある。

委　員

継続するのであれば、投資することもいとわない。（今後の戦略として）地域のみなさんでつくるものと外部の農業法人を呼び込んでくることの２通りがある。多くの方々と相談すると、500ｍの標高は利点と捉えており、高原野菜が栽培可能な場所と思われる。長野県で高原レタスが盛んであるが、大阪・京都への消費地につながる名阪国道など交通アクセス利便性があるこの地域でも可能性がある。ただ、外部事業者を呼ぶためには栽培面積として５反が必要と理解している。もちろん、畑作転換へ時間を要することもあるが、この協議会で情報を集められれば農業への企業誘致につながる。事務局でも台帳等により調査しているが、地元のみなさんより情報をいただきたい。

委　員

次に通学支援について議論したい。

高校生になると自宅から出ていくと聞いているところ、駅周辺で待機場所があればと検討している。

委　員

通学は同じ高校・兄弟であっても個々の状況が異なるため、駅周辺だけでなく高原地区にも拠点がいるのではと感じる。

委　員

支援が必要な時間帯を教えていただければ、事務局にて利用可能な公共施設を調べてみる。

４．次回の日程と主な協議内容

次回・第３回会議は、予算要求を踏まえ１月下旬までの日程で調整したうえで市役所４階特別会議室にて開催することを伝えた。

５．閉　会　－11：50－

以　上